

# 「街路樹応援！」宣言

## はじめに

厳しい冬を過ごした枝先から、若々しい新緑が芽吹き、夏にかけて緑を深め次第に紅葉し葉を落とし、「木」はわたしたち住民に四季の移り変わりを感じさせてくれると同時に、生命のサイクルを教えてくれる貴重な存在です。

埋め立て地に誕生したベイタウンには残念ながら自然の森はなく、子どもたちは公園の木や街路樹を見て育ちます。ところが、元気がなく、枯れる寸前、あるいは立ち枯れた街路樹が目につきます。春でもないのに新芽をつけ、紅葉せずに葉が枯れる、植え替えても枯れてしまう、枯れた木は使い捨てられてしまう…こうした街路樹を見て心を痛めている住人がたくさんいます。

これはただ街路樹が、見た目がいいからとか、木陰を提供してくれるからという理由ばかりではなく、「木」が本来もつ強い生命力を身近に感じていたいとわたしたちが願っているからではないでしょうか。その証拠に「今年はナンキンハゼの紅葉がきれいだね」とか、「家の前のユリノキが3階までの高さに育ったよ」とか、我が子の成長を語るように顔を輝かせて話す住民の姿を見ることができます。

だからこそ自分たちの街の大切な木々に元気を取り戻してもらうためにはどうしたらいいかを、自分たちの問題としてとらえ、一番身近なわたしたち住民が観察し、考察し、提案していくことが責務と考えます。

こうした考えのもと、2001～2004年に実施した「街路樹調査」には延べ120人余の住民が参加し、街路樹の実態調査を行い、毎年のデータを蓄積しています。データと住民の実感をもとに、住民の視点からの意見もまとめています。

## 1 街路樹調査の着眼点

### 1) 街全体の街路樹の実態を知る

樹形や葉の付き具合、根の張り具合などから成育状態を3段階評価し、街路樹マップを作成

### 2) 成育の良し悪しの原因を考察する

- ・樹種による違いの有無
- ・建物、防風ネットなどが果たす防風効果
- ・植え柵の形状による違い
- ・植え方による違い
- ・風の影響による違い
- ・管理の状態

### 3) 住民の街路樹(みどり)への意識や動きを知る

## 2 街路樹調査からわかったこと

( ※ 別図1 参照 )

### 1) 街全体の街路樹の実態

街路樹は890本植えられたが、457本が枯死、もしくは樹勢回復の見込みがない状態だった。

ライン状に植樹された樹種ごとに、根付いている木の本数は下表のとおり。(2002年10月現在)

樹種	ユリノキ	モミジバフー	トチノキ	イチョウ	オオシマザクラ	混植
植樹本数	192	103	70	107	28	245
活着本数	60	54	47	40	10	181

## 2) 成長の良し悪しの原因考察

- ・樹種・**照葉樹は適している**が、単植のものは風害が認められる。  
**ナンキンハゼは良好**、新芽の時期が遅く春先の南西風をうけないためと思われる。  
**ケヤキ、ユリノキ、トチノキなどは過半数が枯死。**
- ・防風・ 建物の陰、ネット裏、海から離れた場所ではユリノキ、トチノキ、モミジバフウも良好。
- ・植枡・ 単植タイプが大半だが、植生環境にあわせての植枡の配置ではないようだ。  
枡内の土壌も水はけの悪い場所もあり、**根の環境に問題**がありそうだ。
- ・植え方・環境に厳しいところながら混植、密植で成育のよい場所がある。  
**混植した箇所は成育もよく、景観も好ましい。**
- ・風害・ 海側に防風林など風を遮るものがないため、**南西方向からの風の被害が顕著。**  
建物の直線的な**壁面に沿って風の道**がつくられ、街路に沿って風圧も増す。  
壁面からの吹き下ろしや、撥ね返りの風の害も大きい。
- ・管理・ 朽ちた支柱、雑草などが景観を損なう。支柱自体が地面から浮き上がり、幹にぶら下がったり、幹を傷つけたりなど生育の負担になっている箇所もあった。  
**住民が手入れ(花植え)しているところもある。**  
**今後の管理がどうなるか心配**する声がある。

## 3) 住民の街路樹(みどり)への意識や動き

- ・ 街路樹の成育が悪いため、樹種や並木としての**連続性(ライン)の印象は薄い。**
- ・ 街路樹と街区の植え込み、隣接する公園・緑地植栽と一体になっているところはみどりのボリュームがあり、木の成長もよく、住民の印象もよい
- ・ 街中にみどりが少ないため、夏は暑く暮らしにくく、**木陰を望んでいる。**
- ・ 生活のなかで**四季の移ろいを感じたい**と思っている。
- ・ 植え直しても枯れており、**同じ樹種にこだわる必要はない**と思っている。
- ・ 手入れなど、**住民ができることはしよう**という動きがある

## 3 街路樹整備にあたり具体的提案

( ※ 別図2 参照 )

以上の4年にわたる観察から、街路樹整備にあたり以下のことを提案します。

- ① 現状で特に生育の悪い場所の樹種を変更する
- ② 混植・密植の成功例を厳しい場所に生かし、樹木の育成を図る
- ③ 周辺の公園・緑地と一体化した植栽で環境への抵抗を強め街のみどりを充実する
- ④ 住民が実生苗で束植えたコア前のナンキンハゼの可能性を引き続き観察する